Ａ群・大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

（講義室・演習室）

本学部では、相模原キャンパスにおいて、前期に１週間当たり大小あわせて延べ175室の講義室を、後期には165室をそれぞれ使用している。また、青山キャンパスでは講義室と演習室を合わせ延べ前期176室、後期175室を使用している。

それらのうち、前後期で、**相模原キャンパス**で使用されている教室の**83％前後は100名以下の小教室**で、前期58教室、後期55教室である。100名を超えて200名までの教室は前期８教室、後期７教室、さらに200名を超える教室は前期７教室、後期９教室と少ない。**青山キャンパス**においても、使用教室の**77％は100名以下の小教室**で、前期52教室、後期53教室である。しかし、これらのうちとくに演習用にデザインされた30名以下の教室は前期９教室、後期10室に止まっている（「大学基礎データ」表40）。

講義室に関しては**相模原キャンパスの開学**により、**質、量ともにさらに充実**した。受講者数に応じて適切な広さの教室が割り当てられており、このことから本学の大教室と小教室の数のバランスもとれているように思われる。しかし、青山キャンパスにおける演習の一部のクラスでは、比較的広い50～60名収容可能な講義室を数名によって利用しているところもあり、小規模な演習室が若干不足しているように思われる。

また、相模原キャンパスでは、パソコン入力によるスライド、スクリーン、OHPなどの設備も完備している大教室も数多くあり講義の便宜が図られている。それらのAV機器の使用頻度は高い。青山キャンパスでは11号館、15号館などの中規模教室にAV機器の設備された教室が増加している。教室の冷房暖房設備もほぼ完備しており授業時の快適性は増している。

また、外交官試験や公務員試験の受験を希望する学生用に、**相模原キャンパスと青山キャンパスそ**

れぞれに外交・国際公務等指導室が設置され学生の自習及び共同学習用の部屋として利用されている（『学部パンフレット〔国際政治経済学部〕』）。外交・国際公務等指導室に専用の学習室を割り当てることにより、**学生の自主的な学習活動が積極的に行われており、効果が現われている**。

（教員研究室）

教員研究室については、研究環境の視点より、大学院国際政治経済学研究科で記述する。

（合同研究室）

青山キャンパス（８号館５階）に、本学部用の**合同研究室**がある。ここには、教員の研究活動の補助を目的とする研究用資料の収集・保存、学部専任教員や外部の研究者による研究会を行う**「国際政治経済研究開発センター」**と研究活動の成果を発表するための『紀要』を発行する**「国際政治経済学会」**の事務局もおかれている。ここでは、コピー室（８号館４階／コピー機２台、高速デジタル印刷機を設置）の管理や学部・学会のホームページの管理を行っている。なお、隣室には、資料室があり、雑誌の閲覧や小会議室としても利用されている（「国際政治経済学部ホームページ」）。

相模原キャンパス（Ｂ棟５階）にも、本学部用の**合同研究室**があり、青山キャンパスに研究室を有する教員が、相模原キャンパスに出講した際に活用している。

青山キャンパスの資料室では、**学部開設以来研究用資料**を収集してきているが、これら収集した資料の保存・開架のためのスペースの不足が問題化してきている。また、資料・書籍の重量なども耐震性の観点から検討する必要があるのではないか。この他に、建物の老朽化にも十分注意を払う必要がある。本学部教員の多くの研究室がある青山キャンパス８号館は、建て替えがまたれる建物の１つではないだろうか。

なお、相模原キャンパスの合同研究室については、旧厚木キャンパスの頃よりは広くなっているが、室内に水道のシンクがないなどの不便な点は改善されていない。